2024 年度　霞が関政策提言ツアー　実施報告書

実施日：2025 年 3 月7日(金)
意見交換：財務省(主計局)、国土交通省
参加者：赤井ゼミ学生 14 名、引率教員1名（赤井[1]）

[1] 連絡先：赤井伸郎（大阪大学国際公共政策研究科教授）akai@osipp.osaka-u.ac.jp

目次

1. 政策提言ツアー企画の経緯 2
2. スケジュール 3
3. 写真 4
4. 学生感想・コメント 6
4.1 財務省でのプレゼン 6
4.2 国土交通省水管理・国土保全局 水道事業課でのプレゼン 11
4.3 国土交通省 都市局 都市計画課 都市機能誘導調整室ほかでのプレゼン 14
4.4 今回の政策提言ツアー全体への感想および、実際の政策決定を行う担当者との意見交換の場（中央省庁、地方自治体、その他）やそのあり方についての意見・希望 17
4.6 阪大(東京）オフィスの印象 19
5. 政策提言ツアー実施の効果：企画者のコメント 20

1. 政策提言ツアー企画の経緯

大阪大学法学部国際公共政策学科赤井ゼミ所属の学生が 2024年度に執筆した論文において提言した政策に関して、実際に、その政策を所管する省庁に訪問し、提言を行うこととした。受賞した論文およびその他の班の論文は、国土交通省の政策にかかわるものであり、その政策担当者と議論する機会を持つことにした。本ツアーに御協力いただいた多くの皆様には、学生に貴重な体験の機会を与えていただいたことに、深く感謝したい。

2. スケジュール

午前パート：2025 年 3 月 7 日（金）9：40～12：00

10:10-10:45 「浸水被害による資産損失の低減に向けて」

10:45-11:20 「大規模地震災害を見据えた水道基幹管路耐震化の実現」

11:20-11:50片山調査課長との意見交換

＜担当者様＞

調査課対応者：片山課長、大本補佐、林係員

（司会進行：大本補佐、ロジ：6係）

予算係対応者：竹内主査（公共総括1係）

浸水対策：国交4係　尾身主査、国交5係　末松主査

水道耐震化：国交5係　末松主査

※別途、松野国交第5係長が随時参加。

【午後パート】（国土交通省）

場所：国土交通省航空局 7 階 A 会議室

13:30-14:30 国土交通省水管理・国土保全局　水道事業課（上下水道審議官グループ）

水道耐震化班「大規模地震災害を見据えた 水道基幹管路耐震化の実現」

14:45-15:45 国土交通省　都市局　都市計画課　都市機能誘導調整室

・水管理・国土保全局河川計画課

・住宅局住宅経済・法制課

浸水対策班「浸水被害による資産損失の低減に向けて」

16:00-17:00　　ふりかえり@大阪大学東京オフィス

3. 写真

財務省訪問〔午前〕と意見交換

調査課長とともに

浸水対策班

水道耐震化班

各省庁との意見交換会(午後)

国土交通省水管理・国土保全局　水道事業課

国土交通省　都市局　都市計画課　都市機能誘導調整室ほか

4. 学生感想・コメント

4.1 財務省でのプレゼン

財務省への政策提言での発表・議論（自分の班および、他の班）から感じたこと・学んだこと、財務省のハードの印象・財務省のソフトの印象（担当者）など

1. 自分たちが発表・提言したテーマを実際に担当していらっしゃる方に対して、直接発表し議論することが出来、ゼミで日ごろ行っている研究や議論が、実際の政治や行政と密接にかかわるリアリティの高いものだと改めて認識する機会となった。また財務省の方のお話を聞いていて、政治家や国会との調整や国民世論との関係を非常に深く考えて働いていらっしゃるのであろうという事を感じた。国民に対しては数字や統計を用いてファクトを知ってもらいたい、というメッセージが心に残っている。
2. 財務省の方の発表を聞いて、ハード面に関しては突き詰めて考えると、とりあえずお金を出せば行うことができるため、比較的容易に実現できると感じました。しかし、ソフト面に関しては、その政策を実現するためには、影響を受ける国民に対して丁寧に説明をしていく必要があるため非常に難しいと感じました。また、他に学んだこととしては、ある政策の実現可能性を考えるうえで、国民みんながその政策によって解決される問題を、問題であるということを認識している必要があるということです。そして、これを通してやはりソフト面で問題を解決していくことは非常に大変だと感じました。
3. 発表の場所はすごくフォーマルで、ニュースで見るような会見に参加した気分でした。自分は発表する人ではなかったが、それでも自然と緊張してしまいました。財務省で最初に発表した

林班が非常に高い評価を受けて、質疑応答の対応も逆質問もすごくレベル高かったのは印象深かったです。西田班としては、少しプレッシャーも感じつつ、論文を書く時ずっと気にかかっていた実現可能性について質問できたので、一区切りついたように感じました。また、財務省の皆さんはとても優しく、私たちの質問にも分かりやすく答えてくださり、さらに来年の政策提言論文に向けた新たな視点も提供してくださいました。本当に多くのことを学ぶことができました。

4. "政策提言の発表自体は３回目だったので、スムーズに行うことができました。財務省の方々からのアドバイスとして、実現可能性を上げる ３ つの窓を知りました。世の中の関心があり、みんなが問題だと認識していること、正しい解があること、政治的に通ること。この ３ つは自分の研究にも活かしたいと思います。"
5. 政策の実務面について、特に施行時の合意形成における過程で誰がどのように賛成してくれるのかという見極めや、実際に政策を導入する地域に密に寄り添いながら丁寧に理解を深めて法律やデータという明確な根拠を相手方に提示することが合意形成におけるカギとなるというお話は、担当の方からしか聞くことができない内容でとても興味深かったです。また、論文や発表スライドを作成する際の見易さについても、そこまでの重要度で考慮してこなかったのですが、明瞭で説得力のある誰もが納得できる説明が政策に対する理解につながるということに気づき、今後の資料作成において参考にさせて頂きたいと思いました。
6. まず、財務省の政策提言での発表を行った際の全体の印象としては、学生相手に比較的優しく、そしてわかりやすくお話しされており、官僚がお高く留まっていないのが良かった。質疑応答の際も建設的な議論が行われていたように思われた。発表の後にお話を聞いた際にも財務省としてはどのような視点に立ち予算を組み、他省庁とやり取りしているかがわかり、財務省の人たちの仕事に対する信念が垣間見えた。また、他省庁との駆け引きや押し合いが実際にあるという点からも、同じ国の公務員で国民を向き仕事をこなしているのだが、スタンスに差異があるのも垣間見えた。
7. "財務省での発表を通じて、政策提言の論理的な整合性や、財務省の視点から見た実現可能性の重要性を再認識した。特に、財政制約を踏まえた現実的な提案が求められることを痛感し、政策の実現可能性が極めて重要であると感じた。建物内の構造やドアなどには歴史を感じさせる一方で、厳格なセキュリティ管理が施されており、官庁としての公的機関の雰囲気が強かった。担当者の方々は論理的で専門知識が豊富であり、学生の意見にも耳を傾け、真剣に議論に応じてくれていた点が印象的だった。今回の経験を通じて、政策を立案する際には、理想と現実のギャップをどのように埋め、どのように説得力を持たせるかが鍵になると改めて実感した。"
8. 議論の中で、私有財産の保護を基本的にしないこと、自助・共助・公助の三つの観点のバランスを考えることなど、責任を持って政策を作られている方が政策を介入すべきかどうかの判断基準を明確に言語化され、自分自身の中で整理がつきました。また、官僚の方が霞が関で現実と理想のつじつまを合わせるという作業にどのように取り組まれているか想像ができ

るようになりました。また、特に国際情勢を踏まえて日本経済を理解する視点が自分自身にかけていると気づくことができました。

9. プレゼンテーションを通して、林班の論文内容の方向性が、財務省が目指す姿と類似している提言であると気づいた。テーマ選びや提言の幅広さを褒めて頂いて、論文に対しての誇りが大きくなった。一方で、私有財産保護という視点が現状分析及び提言から抜け落ちていたことを指摘され、行政に関して総論から汲み取れていなかったと反省している。また財政総論に関するプレゼンテーションの質問に対する返答で、担当の方が的確かつ過不足のない回答を連続して行っていて、その能力やスキルの高さに驚愕した。

10. 合意形成や、中央政府が関与する幅を意識して政策立案をされているのだなという印象を受けた。特に合意形成をする際は、各アクターが賛成してくれるためにデータを用いて理想と現実のすり合わせを行ったり、各論総論で意見が異なる理由を掘り下げたりして細かく対応していく必要があるのだと学んだ。このような丁寧なソフト面での対応の積み重ねの結果、全体が同意してくれるような政策実現につながっていくのだなと思った。また、政策の実現可能性を高めるためには今までの施策を振り返り、次はどちらの方向に踏み出していくことができるのか見ることも大事であると聞いて、改めて過去の施策を調べきる大切さを知った。

11. よりお金がかかり、いったんお金をかけてしまったら後戻りしにくい特性を持つハード面のテーマを選んだことにより、その政策の必要性、政府の介入が必要かというところに指摘を受けたことが印象に残った。そのようなハードの特性があるからこそ、都市整備（コンパクトシティ化）等の視点も絡めて提言を行うことができればよりよい論文になったのではないかと感じた。

12. "スムーズに進められたが、多くの学びがあった。特に「政策の実現可能性を高める 3 つの窓」（世の関心、正しい解、政治的妥当性）の視点は今後の研究にも活かせると感じた。また、合意形成には関係者と密に連携し、法律やデータを根拠に丁寧な説明を行う重要性を学んだ。財務省の視点から、財政制約を踏まえた現実的な提案の必要性も痛感した。官僚の方々の的確な対応や専門知識の深さに刺激を受けるとともに、自分たちの提言の不足点を指摘され、より包括的な視点の重要性を再認識した。政策立案において、理想と現実のギャップをどう埋めるかが鍵になることを改めて実感した。"

13. 今回で３度目かつ最後の財務省訪問となったが、今回も日本国の財務事情を統括する機関の雰囲気や官僚の方々の活躍されている環境を視察することができ、非常に貴重な経験であった。我々のプレゼンテーションを聞いて、その考え方の過程や施策の内容について丁寧に吟味してくださったこと、また実際に展開されている政策と比較してコメントをくださったことは大きな財産になると感じた。お話を伺い、私たち一人一人が正しい知識を学び、学ぼうとすることが必要だと感じた。

14. 赤井ゼミでは論文執筆が活動のメインとなっているが、それ以上にこの実際に霞ヶ関で働かれている方に提言ができるという機会がいかに恵まれていて価値のあることかを改めて実感できた。理論上は政策の筋が通っていたとしても、住民感情等様々なステークホルダーの視

点に立って政策をデザインしていくことが肝要であるということが理解できた。また、質疑応答の中で霞ヶ関の方々は理路整然とした受け答えをされていて、いつかこんな風に誰かに説明ができる論理的思考を養いたいと感じた。

財務省食堂のランチについて。（阪大のいろいろな学食と比べて）。財務省職員の職場環境について感じたことも。

1. 財務省内の内装の影響もあり、学校の食堂のような雰囲気を感じた。また食堂の壁には公務員限定の婚活サービスやサッカーや野球といった省内のサークル的なものを宣伝するチラシが貼ってあり、普段の様子が垣間見えてとても面白かった。
2. 財務省の食堂については、阪大の学食と比べて並ぶ時間が少なく、商品自体も手が込んでいておいしくいただくことができました。また、財務省キャリアの印象については、やはりものすごく優秀でないと入ることができないという印象を持っていて、職場環境については、コーヒーが販売されており、きちんと息抜きができる環境が整っていて、非常に良いという印象を受けました。
3. まず、すごく美味しかったです！私が食べたのはブリにレモンソースをかけたものの定食で、すごく満足に食べました。先輩にうどんも味見させてもらいましたが、それもとても美味しかったです。東京でこの値段でこのような分量たっぷりで栄養バランス良く食べれるのは幸せでした。財務省の皆さんは日本を支えている仕事をしているので、少し厳かなイメージがありましたが、その中はなぜか学校のような雰囲気を感じて、安心感を覚えました。
4. "財務省の食堂は阪大の食堂と大差ないように感じました。IC カードの落とし物の掲示や食器返却の注意書きを見て、親近感が湧きました。職場環境から、省内の方々はみな責任感を持って仕事をされている印象を受けました。
5. ランチでは味噌煮込みうどんを頂きました！学食よりも量が多く栄養があってお得な感じがしてとてもおいしかったです。回転率の速さにも驚きました。省内には幅広い年齢層の方がいらっしゃったように感じましたが、女性はやはり少ないのかなと感じました。
6. 献立に関しては、安価で非常においしい、ボリューミーなもので阪大の物と比較しておいしく良かった。ただメンチカツのつなぎが多かった気がした。また、省内を歩いているときに受けた印象としては、古い庁舎の方は閉塞感があり、雨の日など出勤したくないだろうなーという印象を受けた。あと東大顔が多かった、もちろん良い意味で。
7. " 大学の学食と比較すると、価格はほぼ同じでお手頃な印象だった。味や栄養バランスが考慮されたメニューが多く、職員の健康管理にも配慮されていると感じた。財務省キャリアについては、高い専門性と論理的思考が求められる一方で、実際の政策決定には多くの調整が必要であり、非常にタフな職場であると感じた。職場環境は厳格な雰囲気がありつつも、担当者の方々は学生の意見にも真剣に向き合い、議論を交わしていた点が印象的だった。片

山さまがおっしゃったように、中長期的な視点を持ちながら、現実的な政策を模索する姿勢が求められる職場だと感じた。

8. 財務省のランチは価格が良心的でおいしかったです。阪大の学食と比べてメニューは少ないですが、食券制なのでストレスなく受け取れました。また、財務省内は学校のような雰囲気で働きやすそうでした。

9. ランチに並んでいるときに、官公庁とその家族専用の婚活サイトが宣伝されていたのが印象的だった。ブラック霞が関と呼ばれ、激務をこなす職場だが、私生活にも重きを置くことを支援しようとする姿勢が垣間見えた。

10. おもったよりもアットホームな雰囲気の食堂だなと思った。財務省などの中央省庁は忙しくてお昼ご飯を食べる暇もあまりないようなイメージを持っていたので、席を見つけるのも大変なぐらい混みあっている食堂を見て驚いた。また、食事の量やメニューの種類も多かったことから職員の健康にも気を配っている職場であるという印象を受けた。

11. 国会期間中であるため、もっと忙しそうな雰囲気かと考えていたが、大学の学食と比べると落ち着いた雰囲気だった。

12. "財務省の食堂でのランチは、非常に印象的な体験だった。ボリュームもあり、美味しく満足できる内容だった。東京でこの価格帯で、栄養バランスの取れた食事をしっかり取れるのは幸せなことだと感じた。食堂の雰囲気は、阪大の学食と大きな違いはなく、IC カードの落とし物の掲示や食器返却の注意書きがある点にも親近感が湧いた。回転率の速さにも驚かされ、職員の方々が忙しい業務の合間に効率よく食事を済ませている様子が伺えた。メニューは栄養バランスが考慮されており、健康管理にも配慮されていると感じた。価格も良心的で、大学の学食とほぼ同じ水準だった。"

13. 異なるジャンルの定食や丼、ラーメンと何を食べようか迷った。また、食堂内では職員の方々が入れ替わり立ち代わり食事をされていてその多忙さを見ることができた。とはいえ、Youtube をみたりポケポケをされている職員の方も垣間見え、親近感がわいた。

14. とてもおいしかった。財務省の方々の 1 日に密着できたような気持ちになって面白かったし、少し阪大の学食のような懐かしさも感じた。食事の後にコーヒーを売店で購入したが、100 円で美味しいコーヒーが飲めて良い職場環境だと感じた。

4.2 国土交通省水管理・国土保全局 水道事業課でのプレゼン

国土交通省水管理・国土保全局 水道事業課への政策提言ツアーでの発表・議論から感じたこと・学んだこと：(「自分で発表してみて」および「他班の発表を聞いて」の視点で)

1. 水道事業体間に、資金や人材の格差、水資源へのアクセス・水の供給の難易度の差が大きく存在し、一律に同じ政策をすることの妥当性や難しさのお話を聞いていて改めて感じた。直近で道路陥没の事件もあり関心は高まっているが、職員の不足や料金収入の減少という現実もあり、水道管の更新のペースがうまいように上がっていないこともあり、水道事業を持続可能なものにするために上手く手を打たなければ、という意識を担当者の方から強く感じた。
2. 他班の発表や議論を聞いて、水道事業を行うことの難しさを改めて感じることができました。また、担当者の方々が水道事業について非常に事細かに教えてくださったため、水道事業について多くのことを知ることができ、非常に勉強になりました。
3. まず、私たちのために時間を取って事前に詳しい資料を作ってくださってほんとうにありがたいと思いました。すごく嬉しかったです。また、大阪水道局から来た方もいらしゃったので、少し親しみを感じました。来年の論文執筆に対してとても参考になったのは、問題に対する認識・意識です。これがなければ何も始まらないことは、議論を聞いて一番感じたことでした。また、可視化のことについて好評されたので、来年も分かりやすい資料を作るために頑張りたいと思いました。
4. 水道基幹管路の耐震化について、近年水道管の更新が遅れていることを知りました。なぜそうなっているのか、それは人、物、金があれば解決することなのかについて疑問を持ちました。
5. 能登半島地震を受けて今回のテーマはホットトピックとなっている中で、基幹管路の耐震化にむけた DX 化・広域化だけではなくて、人口減少に伴う過疎地域の水道管のダウンサイジ

ングによる効率化も必要になってくるというお話はとても興味深かったです。DX 人材の不足や管路工事にも限界があるため、病院などの急所など優先順位をつけた施行が実際の現場では必要になってくるのだと実感しました。

6. まず、国土交通省水管理・国土保全局水道事業課への政策提言での発表を行った際の全体の印象としては、学生相手に優しく、また、実際に出向していた人、すなわち実地で経験を積んだ人のお話をお聞きできたのが、地方での実態を把握している人からの視点で良かった。自分はただ原稿を読んだだけであり、発表の内容に触れるまでの理解に及んでおらず、発表のスキルもまだまだ未熟であり、今後三年になり、より前での発表を要求される学年になるため研鑽が必要だと感じた。

7. 政策の実現可能性には「注目を集めること」「正しい解釈」「政治的な実現性」の3要素が大切ということが印象的だった。実際に提言を行う中で、現状の課題を的確に整理し、データを基に説得力のある提案をすることの難しさを実感した。また、政策が実現するためには、単に理論的に正しいだけでなく、関係者の理解と支持を得るための説明が重要だと感じた。

8. 政策担当者の方の実際の経験に基づいていた水道事業体の広域化の具体例は非常に説得力のあるものでした。また、国土交通省の水道に対する政策の幅の広さを勉強することができて大変興味深かったです。

9. 担当者の方が、人口減・職員減・管路増の状態で耐震化を進めることが最優先になっても良いのか、という趣旨の発言をされていて非常に新鮮だった。もちろん水道の耐震化は喫緊の課題となっているが、日本という国をマクロに捉えた時にどういった方針にもっていけばよいかという視点も大事なのだと気づかされた。

10. 私たちが発表をした後にあった、国土交通省の方による現状行っている施策についての説明から、耐震化というハード面の問題に対して補助金の配布をインセンティブに耐震計画書の作成を促進したり、各自治体の水道施設耐震化における立ち位置のわかるような資料を作ったりとソフト面からのアプローチを積極的にされているのだなと知れた。2024 年 1 月の能登半島地震を受けて、自分たちが政策提言を行っているのと同時期に国土交通省のなかでも議論が進んでいたが、意図せず方向性が同じようになっていたことが興味深かった。一方で、私たちが苦戦した「水道耐震化に関する先行研究・使用可能なデータがない」という問題を水道課の方々も抱えていらっしゃる印象もあった。

11. 現場の声や状況をよく知る方から講評をいただけて、大変勉強になった。DX、人材確保に関しての実現可能性についてご指摘をいただいたが、なぜ広島県では採用倍率が高くなっているのかという背景までリサーチできていれば、より納得のいく議論を行えたかもしれないと感じた。また、現在進んでいる水源を分散するシステムについてもご教示いただけて大変興味深かった。

12. 国土交通省の水道政策について、広域化の具体例や多様な施策を学ぶことができた。特に「人口減・職員減・管路増の中で耐震化を最優先とすべきか」という視点は新鮮だった。耐

震化への補助金や自治体の状況把握といったソフト面の施策も興味深く、政策決定の難しさを実感した。

13. 国土保全や防災に関して非常に大きな責任感と情熱を持って取り組まれていることを改めて感じた。我々のプレゼンテーションに真剣に耳を傾けてくださったことに加え、施策や現状分析にコメントをくださるだけでなく分析手法やその選択理由にも関心を持ってくださったことが印象的であった。実際に省庁の施策展開に携わっておられる方々が、我々大学生の持ち込んだ施策や分析を丁寧に観てくださり、実限可能性等と照らし合わせて評価していただける非常に貴重な機会であったと感じる。

14. 学生の分析部分に関心を持って多くの質問が出ていたところが興味深かった。データに基づいた政策立案の重要性に改めて気付かされるとともに、その分析に対しても常に問いかけを行いながら業務にあたる姿を感じ取ることができた。また、水道を取り巻く老朽化の問題について、今回の政策提言にあった耐震化を進めていくだけではなく人口減少社会の中で縮小していく考え方も必要となってくることが新たな学びであった。予算なども限られている中で全ての理想は叶えられないからこそ、バランスの取れた政策が求められていることがわかった。

4.3 国土交通省 都市局 都市計画課 都市機能誘導調整室ほかでのプレゼン

国土交通省 都市局 都市計画課 都市機能誘導調整室ほかへの政策提言ツアーでの発表・議論から感じたこと・学んだこと：(「自分で発表してみて」または「他班の発表を聞いて」の視点で)

1. 河川行政ならでは上流下流の問題はとても興味深かった。財務省の方からのお話で総論は賛成してくれるが各論となると反対に意見を変える人が多いという話に国交省の方も言われていたが、どこまで強引にいき、どこまで各人に配慮するかのバランスに苦慮している様子が伝わってきた。
2. 自分で発表してみて、非常に緊張しましたが、省庁で働く方の前で発表をするという機会は中々ないため、貴重な経験をすることができました。他にも、官僚の方たちから直接話を聞くという機会も滅多にないため、本当にこのツアーに参加することができて良かったと感じました。また先輩方が、担当者の方からの質問に堂々と答えられている姿を見て、私も自分の意見にきちんと自信を持って、先輩方のように堂々と応えられるようになりたいと感じました。
3. かなりの人数の職員の方々が集まったのは印象深かったです。この課題について、学生としての定量・定性分析と、政府にいる都市計画・浸水・居住誘導専門の方と、そして被害を受ける当事者にとって、それぞれ考え方や見方が異なっていることは本当に勉強になりました。政策はデータのようなエビデンスに基づくものだけでなく、個人としての現実も国としての現実も見なければならないことを学びました。
4. "国交省の方々はそれぞれの担当分野が細かく別れており、それぞれについてとても詳しくお話を聞くことができました。特に、合意形成において集団では賛成だが個々では反対である

という事象が発生するとのお話は印象的でした。ゴミ処理場や原発の設置において発生し得るのではないかと考えました。実際に設置された市町村において、どのように地域住民の合意を得たのかを調査するのも良いなと感じました。"

5. 政策を実際に考えるうえでは、分析の二項的な要素だけではなくて、対象場所はどの地域で、どのような特徴を持っていてどんな影響が及ぼされるのかなど様々な要素を踏まえて総合的に判断する必要性を改めて感じました。
6. お話しされた三人の方々それぞれで、政策の評価というのは異なっており、それぞれの考え方の違いを知る、という面では良かった。WEST,ISFJ でかなり高い評価を受けた論文でも官僚の人からの多くの指摘が飛び、実務につく人からの観点は大会でのものと少々変わるのかなと感じた。
7. 都市計画の政策提言で議論してみて、都市機能の誘導や居住エリアの調整が、住民の生活や経済活動と密接に関わっていることを改めて実感した。特に、提案が実行可能であるためには、地元自治体や住民の理解を得ることが不可欠であり、説得力のあるデータやシナリオ提示が重要であると感じた。また、交通、環境、防災、経済など多様な視点が交差し、各部署が協力することで、より実現可能な政策が練り上げられていくプロセスを考えるということが印象的であった。
8. イエローゾーンと地価の関係についての分析が政策にどのように繋がるのかが分かりずらいという意見がありました。私自身もその意見を聞いて確かにその点が直感的に分かりずらいと気づくことができました。政策提言の前の部分の分析では、政策提言の内容につながる分析を行うか、分析の趣旨を最も理解しやすい位置に分析を配置することも有効なのではないかと感じました。また、私自身発表した際に発表内容を完全に把握できていなかったため、発表に自信が持てていませんでした。内容の理解に務めるべきであったと反省しました。
9. 財務省の方々から頂いたご意見よりも、現場の状況を鑑みたご意見を頂いたと感じている。担当してくださった方の中にも岐阜県の洪水現場での経験が豊富な方がいらっしゃり、私たちの提言の中で多くを占める行政・財政的視点だけでは行き詰まってしまうと感じた。分析に関しても鋭いご指摘を頂きながら議論できたことは本当に貴重な経験だったと感じている。
10. すごく分析について深く切り込んでおられて、驚いた。対応してくださった水道事業課の方々も、分析について話はされていたものの議論の長さが全く違ったので、課によって分析に対する意識だったり興味関心に差があるのかなと感じた。都市計画はデータも手に入りやすそうだし、先行研究も多そうだからそれらからくるちがいでもあるのかなと思う。また、政策立案の現場でも単純に分析結果を提示するだけではなく、データの傾向なども意識されていると学べた。
11. 自分の班の発表と合わせて、分析面の講評が多いという印象を受けた。定量的な部分はもちろんだが、仮説からその立証、提言までのつながり等も指摘されていたため、来年自分が4 回生になったときにそのような視点も持ってコメントをしたいと感じた。

12. 省庁での発表は非常に緊張したが、官僚の方々の前で自分の考えを伝える貴重な経験となった。特に、政策決定にはデータや理論だけでなく、住民の現実や合意形成の重要性を改めて実感した。また、官僚の方々の専門的な視点や実務経験に基づく意見を聞くことで、自分たちの提案に対する新たな気づきを得ることができた。先輩方が担当者の質問に堂々と答えている姿を見て、自分も自信を持って発表できるようになりたいと感じた。さらに、分析のつながりや発表内容の把握が不十分だった点を反省し、今後の課題として意識したい。政策立案には多角的な視点と実現可能性の考慮が不可欠であることを学び、今後の学びに生かしていきたい。
13. 水道事業課の方々と同様、国土保全や防災に関して非常に大きな責任感と情熱を持って取り組まれていることを改めて感じた。プレゼンテーションに真剣に耳を傾けてくださったことに加え、施策や現状分析にコメントをくださるだけでなく日本の現状にその施策がどう影響するか等という観点まで踏み込んでくださったことが印象的であった。
14. 学生からの政策提言を聞くと、災害時危険となる場所に人が住まないように居住誘導を行うことは一見合理的であるものの、実際にお話を伺うと別のリスクが生まれる可能性や、住民感情への配慮が必要となることがわかった。机上で描く実現可能性と、現実の政策実行の乖離を理解することができ非常に勉強になった。

4.4 今回の政策提言ツアー全体への感想および、実際の政策決定を行う担当者との意見交換の場（中央省庁、地方自治体、その他）やそのあり方についての意見・希望

1. 官庁を訪問し、直接プレゼンをさせていただく機会は初めてであったが、一年間の取り組みを実務者に評価してもらえることはとても貴重な経験であると感じた。来年度自分たちがメインとなって論文を仕上げることを考えても、来年も今回のような機会を作ってくだされば それが執筆の励みになると感じた。
2. 実際に政策決定をしている方と学生間の意見交換だったため、どういう感じになるのか分からず、結構緊張していたのですが、非常に有意義な時間を過ごすことがきました。また、実際の政策決定を行う担当者との意見交換の場やそのあり方としては、相手が実務経験を多く積んでいるからといって物怖じすることなく意見していくことが大切だと感じました。
3. "最も直接的な感想として、同じ問題や論文について、異なる専門知識を持つ各部署の方々が私たちの発表を聞き、非常に具体的で真摯な意見をくださったことが、非常に貴重な経験だったと感じました。私は中国出身で、大学生として国家の政府機関を訪問し、そこで議論を交わす機会を得られるということは、もし中国の大学に通っていたら決して経験できなかったことだと思います。そのため、この機会がいかに貴重であるかを改めて実感しました。次に、先輩方の質問や回答、そして財務書・国土交通省の方々の質問・回答のスピードがとても速く、進行自体も非常にスムーズだったことが印象的でした。私が何を話そうか考えている間に、また、皆さんの発言の内容を理解する前に、すでに次へと進んでいました。来年訪問する際には、質疑応答の準備をしっかりしなければならないと思いました。全体を通して感じたのは、「問題意識」が最も重要であるということです。4 月から自分が論文を書き、発表を主導する側に立つようになりますので、先輩たちを見習って、これからもっと頑張らなければいけないと思いました。"
4. 今回の提言ツアーは、自分たちの政策を現場の目線で評価していただくということとともに、実際の省庁の内面や官僚の方の生の声を聞くことができたため、非常にためになる体験でした。
5. 全体を通じて、新しい経験ばかりでとても楽しかったです。実際の官僚の方を目の前にすると積極的に質問や発言できなかったことが反省点として残りました。また、OBOG の方々のお話も、もう少しお伺い出来たらなと思いました。
6. 非常に有意義な会であり、中央省庁のみならず地方自治体の方ともお話ししてみたい。
7. 母国の財務省や国土交通省に関わったことがない中で、日本のこれらの省庁に関わることができたのは非常に光栄な経験であった。実際に政策に携わる担当者と意見交換をすることで、現場の具体的な状況や考え方を直接知ることができ、貴重な学びを得ることができた。政策決定がどのように行われるのかを知ることができ、それぞれの担当者が抱える課題や視

点、そして政策決定における調整の重要性を実感した。単なる理論だけではなく、実際の現場での決断がいかに重要かを再認識した。

8. 官僚の方の発表内容に対しするアドバイスがどれも非常に説得的で、政策担当者としての豊富な経験と実際に政策を作ることの責任の重さを感じました。また、先輩方が官僚の方と意見を交わし合う姿に、自分の 1 年後の姿を想像し、さらに精進していかなくてはならないと感じました。今後、政策担当者の方とより抽象的な議題として政策とは何かのような観点から議論してみたいと感じました。

9. 昨年の 3 班から 2 班、かつ両方とも国土交通省でのプレゼンテーションだったので、移動時間も短縮され、また 1 班に与えられた時間の余裕も少し長かったように感じた。その結果深い議論や、アカデミックな視座に収まらない話もできたので非常に有意義だったと考えている。一方で、国の視座だけではなくより地域に根差して行政をしている地方自治体の方とも議論したいと感じたことから、ヒアリング先などにもプレゼンテーションの機会があっても良いのかもしれない。

10. 各省庁によって政策を評価する観点が違うという印象をとても受けた。財務省のような国の予算を取り仕切る省庁は、班の政策提言のように幅の広い政策で、補助金などを配布するよりも税率を変更するなどの処置を行うことで行動を誘発するような政策が好まれるのかなと思った。逆に国土交通省のように現場からの声も届きやすい省庁では問題の根本的な原因に狭い領域でアプローチしていて、ヒアリング調査の結果を反映しているようなものが評価されるのかなと感じた。いずれの視点も大事だと思うし、政策を実際に作っておられる方の意見はとても勉強になった。このように政治の最前線に立っておられるような方の感覚や意見を聞ける機会は滅多にないし、自分たちにない視点を得られる貴重な場であるので、これからもたくさん作ってもらえるととても嬉しい。

11. 毎年、自分の書いた論文に実務の視点から意見をいただけるのは非常に得難い経験出ると感じている。今回、3 回生として政策提言ツアーに参加して財務省の方の政策に対しての考え方と、国土交通省の方の考え方に違いを感じた。実現は難しいかもしれないが、財務省の方と他の省庁の方を交えて意見交換ができる場があっても面白いかもしれないと感じた。

12. "財務省や国土交通省の担当者と直接関わり、政策決定の現場を知ることができたのは非常に有意義だった。政策の決定過程や実務的な視点を学び、現場での意思決定がいかに重要かを再認識した。先輩方の意見交換を見て、自分もより精進しなければならないと感じた。今後は、より抽象的な観点から政策について議論してみたい。プレゼンテーションの時間が十分に取れ、深い議論ができた点が非常に良かった。また、地域密着型の行政の視点を持つ地方自治体の方々との議論も重要だと感じた。各省庁ごとに政策評価の視点が異なり、どの視点も重要であると学んだ。この経験を活かし、より広い視野で政策を考えていきたい。"

13. 今回もアポイントを頂き、貴重な機会を頂いてありがとうございました。自分たちで論文を書いて終わりではなく、実際に政策を展開されている霞が関でプレゼンし評価していただくと

いう経験は唯一無二であり、今後の社会人生活や人生において大きな意味を持つと感じています。

14. この取り組みがずっと続いて欲しいと感じる。赤井ゼミでの 3 年間が終わりに差し掛かるにつれて、普段生活している中ではお話しすることができない自治体の方や霞ヶ関の方々にお時間をいただき、意見交換できることがどれほど貴重でありがたいことかを痛感している。論文執筆自体は他大学・ゼミでも力を入れて進めることができるが、実際に霞ヶ関の方々とお話することで政策への理解が実感を伴った本物の学びになると考える。貴重な機会をありがとうございました。

4.6 阪大(東京)オフィスの印象

1. はじめて訪れたが、省庁が立ち並ぶすぐ隣に位置し、地下鉄の出口からすぐに立地の良さや、同じビルに入居していた企業・組織のラインナップをみて凄さを実感した。
2. オフィスの印象としては、立地的には駅や省庁から近くて、非常に行きやすかったです。また、オフィスの中も非常にきれいでかつ職員の方も優しくて、滞在時間は短かったのですが、非常に過ごしやすかったです。
3. このようなすごい場所に大阪大学のオフィスがあるとは思わかなったです。建物に入って、自分の学校の名前が書いているの見て少し感動しました。
4. 東京オフィスは交通アクセスも良く過ごしやすい場所でした。次に東京に来る際も利用したいと思います。
5. 今回の政策提言ツアーがきっかけでないと来る機会のない場所でしたが、訪れてみるととてもアットホームで、就職活動の際はぜひ積極的にご利用ください、と声をかけていただいてとてもうれしかったです。また訪れたいと思います。
6. 狭かったが、きれいなオフィスであり、そもそも東京に拠点があるというのがありがたいと感じた。利用者していた人がフリースペースからさっさと出て行けと言わんばかりの圧をかけられたことに腹がたった。
7. 阪大（東京）オフィスは、霞ヶ関にあり、卒業生から寄付を集める活動が行われていることに驚いた。皆さんが優しく、温かい雰囲気で対応してくださり、とてもありがたかった。都市の中心で、大学と卒業生の繋がりを深める重要な拠点であると感じた。
8. 阪大東京オフィスがあることは存じ上げておりませんでした。大学の発展のために寄付を募っているということをお聞きし、大変有意義だと感じました。また、学生も利用できるということを知ることができてよかったです。就活の際などに利用しようと思います。
9. 昨年に続き訪れたのは 2 回目だったが、昨年と相違なく美しく保たれていたと感じる。後輩たちがこれから就活をするにあたって、東京の便利な拠点になると思うので活用してほしいと感じた。

10. アクセスも良く、会議室も複数備えていて重宝されていそうなオフィスだなと思った。受付の方がとてもフレンドリーで心が和んだ。
11. 去年も使用させていただいたが、変わらず整頓されている印象だった。
12. 少しだけお邪魔させてもらい、充電もできて良い空間だった。来年もよろしくお願いします。
13. 関東に行っても大阪大学の拠点があり、居場所があるということは就活や東京の経験があまりない学生にとって大きな安心感になると思います。ありがとうございました。
14. とても綺麗で素敵なオフィスだと感じた。隣室で会議をしている風景も見られて、実際にどのように利用されているのかイメージも湧いた。荷物を預かっていただきありがとうございました。

5. 政策提言ツアー実施の効果：企画者のコメント

2013 年度に政策提言論文の全国大会にゼミ論文をエントリーし、その成果を実際に霞ヶ関での政策担当者に見てもらいコメントをもらうという「政策提言ツアー」を開始して、今年 2024 年度で 12年目となる。毎年、財務省をはじめ、政策に関わる担当の省庁のみなさまには、大変お忙しいところ、若い学生のチャレンジの応援という形で、お時間を作っていただいている。感謝したい。実際に政策を設計している担当者と意見交換が出来る機会があることは、論文執筆の大きなモチベーションにも、また、今後、社会・政策のあり方を考える上で、貴重な体験となる。この体験をした学生が、社会に出て、社会問題に直面したときに、民間部門であれ公的部門であれ、この経験が役に立つことがあると確信している。それでこそ、企画者および対応していただいた皆様への恩返しとなるのである。この企画の継続には、時間も苦労も多いが、学生の成長があってこそ、やりがいがある。継続は力なり。